

ふるさと講座歴史系第2回目を実施しました。

「明治から昭和の交通の要所 奥行地区文化財を巡る」

7月7日(日)町教育委員会生涯学習課文化財担当戸田博史氏を講師に迎え、奥行地区の文化財巡りを実施しました。参加者は、20名でした。

国史跡旧奥行臼駅逦所主屋は、昨年度保存修理工事が終了し一般公開されています。駅逦所の歴史や完成した主屋の見所を説明いただきました。

さらに、町指定文化財 奥行臼駅、町指定文化財 旧別海村営軌道風蓮線奥行臼停留所についても解説を交えながらの見学により、より深く奥行地区の文化財を知ってもらえることが出来ました。



「史跡旧奥行臼駅通所主屋」発掘調査から

●平成29年度の調査～その4～（郷土資料館だよりNo.240からの続きです。）

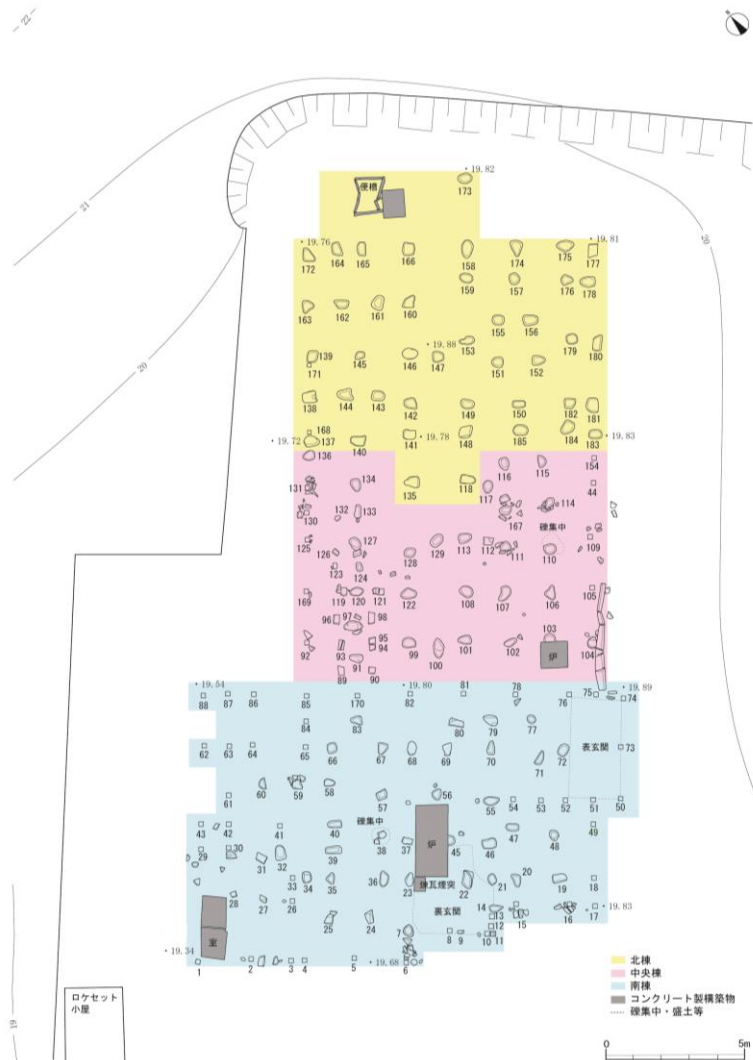
南棟（昭和16年（1941）増改築）の様子。図では、青色の部分

調査により新たに自然石玉石が1個、コンクリート基礎Cが1個、コンクリートブロック2個が検出され合計69個となりました。この内、礎石地業が有るものは60個です。その他、柱穴20基、土坑3基、表玄関、裏玄関盛土を検出しました。

礎石の配置は、建物内は、自然石玉石の礎石が設置され、建物外周は、コンクリート基礎A・Bを設置しています。礎石地業は、自然石礎石では、地業底面に大形の切石やコンクリート片を設置し、上部まで、円礫、小形の切石、コンクリート片を根石としています。コンクリート基礎A・Bも自然石玉石同様の根石の設置方法でした。南棟の西側は整地のため盛土され、整地層からの礎石地業の明確な掘り込みは認められませんでした。整地後掘削し根石を入れたと思われる設置の仕方です。礎石地業の施工は、北棟と比較すると粗雑な点が見受けられました。

柱穴は20基検出され、建物内の北西側に集中していました。土坑は3基検出され、土坑8は、中央棟で検出された覆土に摩周g火山灰（Ma-g）を意図的に入れたものと同様のものでした。

表玄関、裏玄関は、測量調査時に確認されたとおり、土が硬くしめられ、裏玄関は盛土がされていた地点です。1層下面、盛土下面は、円礫、切石、コンクリート片が厚く堆積し、表玄関で最大40cm、裏玄関で16cmの厚さを測る。礎石地業の根石に使用するものと同様のものが堆積し、切石は大形のものが多く見られました。根石に使用しないものを玄関の地固め用に集めたものと思われます。



第4図 旧奥行臼駅通所主屋解体後実測図

別海町郷土資料館だより No.241

発行日 令和元年8月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

7月下旬から一気に気温が上がり、夏を感じさせてくれます。やはり夏は暑くなければいけません。体調管理は必要ですが、短い夏を楽しみたいと思っています。旧奥行臼駅通所主屋、すばらしい施設です。お時間ありましたらぜひ、ご見学ください。あわせて本館にもお越しください。(K.I)